

鳩の湖

能村 研三

百日荒行

一月三日、家族と一緒に中山法華経寺に初詣に出かけた。法華経寺は家から2キロ程の位置にある身近なお寺だが、鎌倉時代に創建された日蓮宗の大本山の由緒ある寺院である。日蓮の書跡『観心本尊抄』、『立正安国論』などの国宝もあり、境内建造物の多くは重要文化財に指定されている。

また法華経寺境内には大荒行堂があり、毎年十一月一日から翌二月十日までの百日間、全国から百人を超える僧侶が集まり、厳しい規則に従い、厳寒の季節に白木綿単衣又は法衣のみの着用で荒行がおこなわれる。

荒行僧の一日は、午前二時に起床し、早朝三時、一番の水から午後十一時まで一日七回、寒水に身を清める水行と、「万巻の読経」「木剣相承」相伝書の書写行があり、朝夕二回、梅干し一個の白粥の食事の生活が続く。

能村家の菩提寺である谷中の延壽寺の若住職竹内焯陽さんも、初行の僧都（筆頭代表）として荒行を務め

垂直に穴掘ることも冬用意
ことごとく枯れ人間は枯れ遅る

乾反りては土に馴染まぬ朴落葉

考へる時間が欲しき鳩の湖

雪来るか津軽三味線高鳴れば

鯺鮓屋に相席願ふ討入り日

雪の夜の顎に挟みしバイオリン

寒鰯を切るや入日の能登が見ゆ

ておられる。コロナ禍もあって三年越しとなった入行であるが、この寒さの中に修行を積まれているのだ。

先般、法華経寺に初詣で行った時、裏山にある聖教殿にお参りしましたが、午後三時の修行の時間であったのか荒行堂からは修行僧のお経を唱える声が聞こえてきた。この中に焯陽さんもおられるのかと思うと感謝と功德の気持が一杯となった。

満行が近くなる一月の終わりに檀家の方々と荒行堂にお見舞いに行くことが予定されている。

また二月の節分の追儺式には、しっかりと髭を蓄えた修行僧による豆まきも行われ、修行で鍛えた嗚び声によるお経が唱えられる。

二月十日の成満会は荘厳な雰囲気の中執り行われるが、出迎えはまだ夜も明けきらない早朝の寒い時にはじまるので、荒行を成満した僧侶の苦勞を体感できる貴重な時間である。

寒行の嗚声の中の澄みし声 登四郎
しづかなる寒行僧の徒跣足 研三

能村 研三